

コンポストで地域と資源の循環計画！

by くらしゴト Labo



なぜこのテーマに取り組むことにしたのか

日本全国で私たちが出す「生ごみ」は年間推計で約 2,842 万トン。一般廃棄物の約 40% を占め、その内訳は約 70% が食品産業から、残り約 30% が家庭からの排出と言われている。そのほとんどは焼却処分されるが、約 80% が水分である生ごみは燃えにくく、焼却には生ごみ 1 トンあたり 760 リットルの助燃剤(重油)が使用されている。日本全体で 6000 億円のコストがかけられており、エネルギー効率が悪く環境負荷が高いという問題を抱えている。

ゴミをゴミとして捨てるのではなく、循環して「資源」として活かすことで、環境への負荷を減らすことになる。また、コンポストを展開していく中で、様々な問題を共に解決していく仲間、堆肥を受け入れる農家、その堆肥で育った野菜を購入する市民と横のつながりが広がっていくことができれば、地域と資源の循環という素晴らしいサイクルができるのではないかと考える。以上の目標達成のため今年度は以下の 2 つの事業を行った。

① 夏休み親子コンポスト教室

生ゴミの現状やコンポストの仕組み、世界のゴミ事情など小学生にもわかりやすい講座を開催した後、夏休みの自由研究で活用できるような「プランター de キエーロ」を製作しました。また、当日は龍谷大学農学部学生さんたちも参加、子どもたちと一緒にコンポスト作りに関わってもらいました。

日 時：2021 年 7 月 26 日 (月) 講 師：木村真知子さん (ローカルフードサイクリング株式会社)
場 所：KIRICAFE (千歳町) 原田禎夫さん (NPO 法人プロジェクト保津川)
参加者：亀岡市内在住の親子 7 組 龍谷大学農学部嶋田ゼミ 11 名



プランター de キエーロ



講座の様子



キエーロの制作風景

② コンポストモニタリング事業

当日はガレリアかめおか創作室にて LFC の平さん、プロジェクト保津川の前田さんよりコンポストや環境についての講座を聞いた後、キエーロを製作する予定でしたが、前日に緊急事態宣言が出たため、急遽講師さんたちに講座内容を YouTube に録画してもらい、それを各自で視聴してもらいました。当日は当初開催予定だった部屋の前で LFC の申し込み案内やキエーロのキット受け渡しのみとし、キエーロも作り方動画や説明書を見て製作してもらう形になりました。それでもみなさん問題なく完成したとのことでした。約半年間キエーロと LFC コンポストをそれぞれ使用して頂き、その使い心地をアンケートに集計。また、2 月 26 日 (土) にオンライン座談会を開催してより具体的な声も聞きました。

日 時：2021 年 8 月 21 日 (土) 講 師：平由以子さん (ローカルフードサイクリング株式会社)
場 所：ガレリアかめおか創作室 原田禎夫さん (NPO 法人プロジェクト保津川)
参加者：キエーロと LFC コンポストのモニター 11 名



LFC コンポスト



キエーロ



HOZU キエーロの作り方

参加者感想 (一部抜粋)

- ・生ゴミのことがよくわかった。キエーロ作りが楽しかった。これからたくさん使っていきたい。
- ・力仕事で大学生の方に手伝ってもらってようやく完成しました。リサイクルが進んでいない国なんだと実感しました。
- ・子どもがする木工としては少々難易度が高いように感じた。講演の内容は小学生でもわかるよう噛み砕いてよかったと思う。
- ・生ゴミを燃やしているのは日本だけというのにとっても驚きました。外国ではプラスチック包装がほとんどないことを知って、これからはプロデュースバッグを使ってレジ袋を減らしたいと思いました。これからは作ったコンポストを使って、生ゴミを燃やさず処理していきたいです。

キエーロとは

キエーロは、黒土に含まれるバクテリアの力を利用して生ごみを分解し削減させる生ごみ処理機です。神奈川県東山町の発祥で、臭いや虫の発生が少なく投入処理能力が高いなど手間がかららないことから注目されています。

特徴

- ・形状は、天板を透明にし日光を入れることにより内部の温度を上げ、天板を上げ傾斜をつけることでできた隙間から空気を取り込み、バクテリアの働きを高める構造をしている。
- ・黒土中にいるバクテリアが生ごみを分解するので、中身がほぼ増えない。
- ・土の中に生ごみを埋めるので、虫や臭いが発生しにくい。
- ・天ぷら油の廃油、汁物の残り汁なども投入可能。

使い方

1. 設置場所を決める
なるべく日当たりがよく、風通しの良い場所がおすすめです。
2. 使用するものを用意する
スコップ、ジョウロまたはバケツ
3. キエーロに生ごみを入れる
20センチメートルほどの穴を掘り、生ごみを入れて周りの土と密着させます。
4. 生ごみを入れ終わったら
乾いた黒土を生ごみを入れた穴にふせて完全に覆います。(虫や臭いの発生が防げます)
5. 繰り返し利用する
埋める場所を変えながら上記 3.~4. を繰り返し行います。穴は 3か所~4か所が目安です。

投入物の注意

基本的に人間が食べるものは分解されますが、一部分解がされないものやできないものがあります。

分解されないもの：繊維質が多い野菜の皮

分解されないもの：動物の骨、貝殻、玉ねぎの黄色い外皮、梅干しなどの種子、食べ物以外のもの

分解されるまで夏場は 5 日、冬場は 2 週間ほどかかります。

ワンポイント!

- ・土内部に空気がよく入るように混ぜる。
- ・投入物を細かくしたり、熱を通すと分解されやすくなります。
- ・廃油を入れると、バクテリアの働きが活発になる。
- ・冬場は削減まで日数がかかりますが、分解はされます。

気づきと反省点、今後への課題

「夏休み親子コンポスト教室」は子供たちにも身近な環境問題として興味を持っていただけたので、今後も継続していき、楽しく習慣化していくきっかけ作りしていきたいです。参加者が想定していた人数より若干少なかったため、チラシなどアナログな方法も積極的に取り入れた方が良かったかもしれません。モニタリング事業であった「仕組みが理解できないため、うまくいかず辞めてしまった」という声からコンポストの意義や仕組みをいかにわかりやすく伝えるかがとても重要だということに改めて気づくことができました。今後もコンポストは講座とセットでしていくこと、またわからない時に気軽に聞ける仕組みづくりや、やる気を継続する工夫など必要だと感じました。また、コンポストは夏が分解しやすく、冬は分解速度が落ちるという特性があり、できれば生ゴミの分解が実感できる夏頃までにコンポスト講座を開催したいと思います。今回キエーロの製作方法を緊急処置的に動画で説明する形にしましたが、参加者にも好評だったので、今後も使っていきたいと思っています。

アンケートを見て

半年間コンポストを活用して頂いての感想は概ね好評でした。ただ、秋からのスタートだったため、生ゴミの分解を実感しにくい様子でした。コンポストは夏スタートが分解を存分に実感できて楽しいかもしれませんが虫の心配が少ないのは秋・冬です。分解速度が遅くなると不安になるので、やはりそういう時に気軽に質問できたり、意見交換ができる場があれば理想かと思いました。今後はそのようなソフト面の充実も大切だということがアンケートから見えてきました。